

プロの現場

第28回
株式会社 樹サイン
(埼玉県・志木市)



①社内ミーティング ②事務所内 ③工場内での作業 ④大型サイン仮組作業 ⑤板金加工



⑥第二工場 (チャンネル文字専門工房 LABORI) ⑦第二工場内



⑧⑨チャンネル文字の製作 施工実績/⑩「玉簾の滝」行灯サイン ⑪「天成園」内照FFサイン ⑫学校・ペイントサイン

培った技術と対応力を武器に
顧客との信頼関係を築く。



代表取締役 岡村直樹氏 (48歳)

自信の源はネオンで培った技術

埼玉県南西部に位置する志木市。県内有数の文教都市、ユニークなところでは「カップ伝説」の地としても知る人ぞ知るところである。同市上宗岡に本社・工場を構える(株)樹サインは、1999年に創業。「プロ集団を強く意識し、少数精鋭をいかしてフレキシブルに行動する」をモットーに、官公庁や学校、病院、商業施設など、様々なサインの製作施工を一貫して手掛けてきた。

代表取締役の岡村直樹氏は、20歳の時、県内のサイン製作会社に就職。鉄骨、板金、仕上げなど、現場施工に一通り携わり、7年の修行を経て、27歳で独立。「元来、独立志向が強かったこともあり、自分のお客様も増え、周囲の方々からのサポートもいただき、起業を決断しました。創業当時はスタッフも1~2人だったので、

結構なハードスケジュール。若さにまかせて、ただがむしゃらに突っ走るとい…… (笑)。キツイという感覚はなかったですね。

かつての勤務先は、ネオン工事に強みを持っていた。その流れで会社立ち上げ時も、ネオン関連業務が6~7割を占めていたという。「時代の流れで、ネオンの仕事は減っていくこととなります。しかし、ここで培った技術は、あらゆるサイン施工に対応できる。自信が揺らぐことはなかったですね。」

そして、次のステージへ——。業務効率化を図るために、設備投資も行った。「IJP (インクジェットプリンター) は、今やサイン業務のスタンダード。LED など新しい製品も続々と出てきていますが、技術面で大きな変化は感じません。これらを巧み取入れつつ、いかにお客様のニーズに即した看板を創造していくか。当社としても、継続テーマになります」。

人材育成も重要課題に

同社が持ち得る最大の武器として、岡村氏は「顧客対応力」を挙げる。「ゼネコン、店舗ともに主要取引先ですが、求められている形はそれぞれ異なります。ゼネコンならば図面に忠実に、店舗であればいかに良い提案ができるか。培った技術と対応力があってこそ、お客様との信頼関係も築けるもの。当社に頼めばなんとかしてくれる。そう思っただけなのが嬉しい。さらに精進していきたい。」

社員数は現在35人。人材育成も重要課題の一つとなってきた。「現場の人間というのは、傍からみるとぶっきらぼうに感じることもあります。今の時代、このような「職人気質」だけでは通用しません」。同社では、製作・現場・営業・事務などチームを編成し、業務を遂行。教育体制については、全社一体となり、協力し合うことで、取

引先とのコミュニケーション醸成に注力している。

チャンネル文字製作に力注ぐ

同社がなにより重視するのは、製作力。2014年に発足した第2工場「チャンネル文字専門工房 LABORI」も軌道に乗ってきた。「オリジナル商品を果敢に提供していく。ものづくりの醍醐味ですよ。製作部隊のスキルも着実に向上してきたことで、お客様も順調

に増えています」。

8月に開催した「サイン&ディスプレイショウ2019」にも、LABORIの名義で出展。「スタッフは出品するチャンネル文字について自主的に提案を行い、終了後も反省会を開くなど、次のブース作りにつなげていこうという姿勢が見えました。頼もしいです。」

社員一人ひとりがやりがいを持ち、高い意識で業務に臨んでいく。同社が成長を続けていく上でのアドバンテージである。



本体外観

<p>『会社データ』</p> <p>創業 / 1999年</p> <p>資本金 / 1000万円</p> <p>社員数 / 35人</p> <p>所在地 / 埼玉県志木市上宗岡 3-6-18</p> <p>TEL 048-486-6110</p> <p>FAX 048-486-6120</p> <p>HP: https://www.kanbanitsuki.com/</p>	<p>『営業品目』</p> <p>各種商業施設・店舗サイン、チャンネル文字の製作施工、企画、設計管理など</p> <p>『主な設備』</p> <p>溶剤IJP2台、カッティングマシン2台、2.4巾ベンダー2台、2.4巾シャーリング2台、メタルソー2台、ルーターマシン2台、半自動溶接機6台、レーザー溶接機1台……他</p>
--	---